



目の前の時間

先週は、センター試験だの自己採点だのその結果の分析だの日比谷の推薦選抜だのと忙しく、ちょっとこの通信を書く余裕もなかったのだが、特別授業も一段落して、あとはひたすら添削という時期になった今週は、久しぶりに落ちついた感じである。

金曜日は、ベネッセの方によるセンター試験全体の分析を聞いたり、面談をしたりして、大部分の諸君が、国公立大学の前期と後期の出願先を決定した。残念ながら思い通りの結果が出なかった人の中には、志望先を変更せざるを得ない人もいたが、それぞれに新たな目標を決めて、すでにスタートを切っていることを期待したい。

これからは、国公立にしる私立にしる、個別入試に対応する実力をつける必要があるから、徹底して過去問にトライし、出来なかった問題や分野・範囲をつぶしていくことと、出題の特徴や解答の仕方などをマスターしていくことが大切である。第一志望ではない大学を受験する場合は、どの程度準備に時間をかけるべきなのか難しいところだが、問題の配列に慣れたり、時間配分の計画をイメージしたりするためには、少なくとも3年分くらいの過去問はやっておいた方がよい。もちろん、第一志望ではないとはいっても、君たちが受験するレベルの大学なら、その過去問を解くことそれ自体が第一志望大学の入試準備にもなるのだから、時間のムダではないか…などといった後ろ向きな気持ちで取り組まず、やったならやったりの実力伸長が見込まれるように、積極的かつ丁寧に取り組むこと。そういう気持ちの持ちようが、結局は良い結果へと結びつくのである。

ところで、土曜日は推薦選抜であった。今年の集団討論のテーマは「これからの日本を生きる者として身につけたいのは「～～力」である」の「～～」の部分に言葉を入れ、理由とともに述べるというのがスタートであった（ちなみに、上述のテーマはうろ覚えなので不正確だが…）。まあ、おおよそ予想はつくと思うが、いわゆるコミュニケーション能力に関する答えが圧倒的であった。

ちなみに、君たちが受験した年は「中学校で新しい教科を一つつくとしたら」だった。お～懐かしい！と思いつく人もいるだろうか。面接の場でどんな教科が提案されたか忘れてしまったが、今の君たちなら一体どう答えるのだろうか。

その推薦選抜で教室がすっかりキレイになってしまったが、ちょっと前まで2年生の教室の後ろの黒板には、今度の星陵祭でやる劇の候補が並べられていた。また、合唱祭の練習をはじめているクラスも何クラスかあって、朝廊下を歩いていたりすると、音程をとったり声出しをしたりしている様子が漏れ聞こえてきたりする。

そういう様子を目にしたり耳にしたりするたびに、そういえば去年の今ごろ、やっぱり君たちも合唱の朝練をはじめていたなあとか、星陵祭の演目の調整をしていたなあなどと思いつく。私でさえ思いつくものだから、君たちはもっと時の流れを敏感に感じていることだろう。しかし、時間は決して戻らない。あるのは目の前に広がる空漠とした時間だけである。だからこそ、その時間を素敵なモノにする努力に全力を傾注しよう。